

2023 年春学期全時間訓練

メッセージ 4 のための導入の交わり――

「なだめの場所としてのキリストの内在的意義と啓示―― 罪を覆う蓋の実際」

人の墮落の後、神は三つの項目――剣、炎、ケルビム――によって命の木への道を閉ざしました（創 3:24）。殺すための剣は神の義を示し（参照、哀 3:42-43, ローマ 2:5）、炎は神の聖を表徴し（申 4:24. 9:3. ヘブル 12:29）、ケルビムは神の栄光を表徴します（参照、エゼキエル 9:3. 10:4. ヘブル 9:5）。神のこれらの属性は、罪深い人に要求しました。わたしたちはみな罪人として、神の義なる律法を破り、神の聖なる存在に反し、みな神の栄光に欠けています。罪深い人はこれらの要求を満たすことができないので（ローマ 3:10-18, 23）、命の木としての神と接触することは許されませんでした。キリストは十字架上ですべてのを含む死によって、これらの要求を満たし、新しい生きた道を開かれたので、わたしたちは至聖所に入って、命の木にあずかることができます（ヘブル 10:19-20. 啓 22:14）。

キリストは来て十字架上で死に、神の義、聖、栄光の要求を満たしました。彼は復活し、今やわたしたちの義、聖、栄光です（I コリント 1:30）。こうして、命の木への道を閉ざしていた神の属性は、わたしたちがキリストを命の木として享受することを通して、今やわたしたちのものです。

ローマ人への手紙は以下の主要な点を示す：

ローマ人への手紙の基本的な思想とは、神が彼の法理的な贖いと有機的な救いを通して、罪人を神の子たちとならせ、地方召会において実現されるキリストのからだ全体のブレンディングの生活を通して、キリストのからだを建造するということです。

1) 神の義（キリスト）は、キリストの贖う死を通して、わたしたちに勘定されました（ローマ 3:25）。

2) 神の聖は、わたしたちの中に生きているキリストを通して、わたしたちの中へと造り込まれています。日ごとに、神聖な性質がわたしたちの中へと注入され、わたしたちを性情において聖とならせます（ローマ 6:19, 22-23）。

3) わたしたちは最終的に、神の栄光をもって栄光化されます（ローマ 8:30）。主を信じるあらゆる人は最終的に、栄光化された神の子となり、外側で神の義を担い、内側で神の聖で浸透され、彼の子たちの一人として彼の完全な栄光の領域

の中で輝きます。わたしたちの栄光化の日は神の子たちの出現となるでしょう（ローマ 8:19）。その時、わたしたちは神の子供たちの栄光の自由に入ります（ローマ 8:21）。これは神の完全な救いとなります。

4) この時点で、わたしたちは完全に神の心、神の永遠の愛の中へともたらされ（ローマ 8:35, 39. 8:28）、この愛は神ご自身です（Iヨハネ 4:8, 16）。過去の永遠から、神はわたしたちを愛され（エレミヤ 31:3）、今日なおもわたしたちを愛しておられます（ローマ 5:5）。彼の心、彼の愛は、わたしたちの安全と保護です。

5) 神の義、神の聖、神の栄光、神の愛のゆえに彼を賛美します！これがローマ人への手紙の第8章までの構造です。

ローマ第3章 25節はなだめの場所の実際としての キリストを啓示する

この節はキリストに関して言っています——「神はこのキリスト・イエスを立てて、なだめの場所とされました。それは彼の血により、信仰を通してであって……」。

**なだめは、一方が他方に対して間違い、負い目を負い、他方の要求を満たす行為をしなければならないという、二者の間の状況を和らげることを指しています。なだめは、わたしたちのために神をなだめること、神の義なる要求を満たすことによって神をなだめることを意味します。 **

1) 神は天と地の創造と回復に6日間費やされましたが、キリストを罪を覆う蓋として立ててなだめをなすことを永遠の過去に開始されました。ミカ書第5章2節は言います、「しかし、ベツレヘム・エフラタよ、あなたはユダの千万の間で最も小さいが、あなたからわたしへと、イスラエルの支配者となる者が出て来る。また、彼の出て行くことは太古から、永遠の日々からである」。

2) 神がキリストを立てて、なだめの場所し始めたのは、彼が十字架につけられている間、暗やみが全地を覆った時でした。その時、彼は罪のための唯一のささげ物、罪のためのささげ物の実際としてご自身をささげられました（ルカ 23:44. ヘブル 9:26）。それから3日目に、神は彼を復活させました。この復活もまた神がキリストを立てる手順の一つでした。主の復活の後、神がキリストを天に受け入れ、彼を神の右に置かれました。この受け入れることと置くこともまた、立てることの一部です。キリストの十字架、復活、昇天して神の右に座るというすべての手順を通して、神はキリストを立てられました。この立てることは、キリスト

ご自身をなだめそのものとならせました。今やなだめとしてのキリストによって、神の義はわたしたちに適用されることができます。

3) 証しの箱は幕屋の中心と内容として、召会の中心と内容としてのキリスト、神・人を表徴し、召会は神の幕屋、神の家です。幕屋の器具の第一の項目として、箱は首位を占めます。

4) 証しの箱の最も重要な点は、出エジプト記第 25 章 17 において箱の罪を覆う蓋によって予表されているなだめの場所です。このなだめの場所は、幕屋の中の箱の上にある罪を覆う蓋によって予表されており、純金のこの罪を覆う蓋はキリストの最上の部分を表徴しています。

5) 神とのすべての接触は、神の義、聖、栄光の三重の要求によって管理されてきました。大祭司が来て神と接触するときはいつでも、神の義の要求（箱の内側の律法の板において具体化される）、神の聖の要求（箱の位置——至聖所——によって示される）、神の栄光の要求（箱をアーチ状に覆うケルビムによって表徴される）を満たしました。

主題：パウロの書簡における真理の重要な項目

メッセージ 4

なだめの場所としてのキリストの内在的な意義と啓示 ——罪を覆う蓋の実際

聖書:ローマ 3:25. 出 25:16-22. 37:6-9. レビ 16:14-15, 29-30. ヘブル 4:16. 9:5

- I. 罪を覆う蓋（出 25:16-22. 37:6-9）、すなわち、なだめの場所は、（契約の）箱の上にある罪を覆う蓋でした。ローマ第3章25節は、キリストがわたしたちのなだめの場所であると言っています：
- A. 旧約における予表として、罪を覆う蓋、すなわち、箱の上の蓋は、至聖所に隠されてきました。新約では、キリストは、なだめの場所、すなわち、罪を覆う蓋の実際として、すべての人の前に公に立てられています——ローマ 3:25。
 - B. 箱は、神がご自身の民と会った場所でした。箱の中には、十戒の律法が入っており、その聖と義の要求によって、神に接触しに来た民の罪を暴露し、罪定めしました。しかしながら、罪を覆う日に、罪を覆う血が振りかけられた箱の蓋によって、罪人の側のすべての状況は、完全に覆われました——レビ 16:14-16。
 - C. ですから、罪を覆うこの蓋の上で、神は、彼の義の律法を破った民と会うことができました。神はこれを、神の栄光を担い、また箱の蓋を覆っていたケルビムが見つめている下でさえ、行政上、彼の義に何の矛盾もなしに、行なうことができました——出 25:22。
 - D. このようにして、人と神との間の問題は和らげられ、神は人を赦し、人に対してあわれみ深くなり、それによって神の恵みを人に与えることができるようになりました。
 - E. これが予表しているのは、キリストが神の小羊として、人が神に対して問題を持つようにさせた罪を取り除き、こうして神の聖、義、栄光の要求すべてを満たし、人と神との間の関係を和らげるということです。
 - F. このゆえに神は、人がかつて引き起こした罪を過ぎ越すことができました。また、神は彼の義を示すために、これを行なわなければなりませんでした。これが、ローマ第3章25節の言っている事です。
 - G. 箱の蓋のヘブル語は、「カポレス（kapporeth）」であり、「覆う」を意味する語根から来ています。七十人訳では、この言葉は「ヒラステ

リオン (hilasterion)」と訳されており、それは「なだめの場所」を意味します(「なだめ」とは、赦すこと、あわれむことを暗示します。ヘブル第 8 章 12 節で「なだめ」と訳された言葉は、「ヒラステリオン」の語根です。そして、ルカ第 18 章 13 節で「なだめ」と訳された言葉は、この語根から派生しています)。

- H. キング・ジェームズ訳は、「あわれみの座 (mercy seat)」という訳を採用し、神が人にあわれみを賜わる場所を指しています。ヘブル第 9 章 5 節では、パウロは箱の蓋に「ヒラステリオン」という言葉を用いました。ローマ第 3 章 25 節でも、同じ言葉である「ヒラステリオン」が用いられており、箱の蓋が、神によって立てられたなだめの場所としてのキリストを表徴していることを示しています。
- I. 「ヒラステリオン」に加えて、新約では、同じギリシャ語である「ヒラステリオン」から派生した二つの言葉が用いられており、どのようにしてキリストが人の罪を取り除いて、人と神との間の関係を和らげたかを示しています：
1. 一つは、「ヒラスコマイ (hilaskomai—ヘブル 2:17)」であり、その意味は、「なだめること」、すなわち、「和らげること」、一方の要求を満たすことによって互いを和解させることです。キリストは、わたしたちに対する神の要求を満たすことによって、わたしたちを神へと和解させました。
 2. もう一つは、「ヒラスモス (hilasmos— I ヨハネ 2:2. 4:10)」であり、その意味は、「なだめるもの」、すなわち、なだめの犠牲です。
- J. キリストは、わたしたちの罪のためになだめを成就しました (ヘブル 2:17)。このゆえに、彼は、わたしたちと神との間のなだめるもの、すなわち、なだめの犠牲となりました (I ヨハネ 2:2. 4:10)。また彼は、箱の蓋によって予表されているように (ヘブル 9:5)、わたしたちが神の御前でなだめを享受する場所、神がわたしたちに恵みを与える場所ともなりました。
- K. ですから、キリストはなだめを成就する方であり、彼はなだめの犠牲であり、彼はなだめの蓋、すなわち、神と彼の贖われた民が共に会う場所です——出 25:21-22。
- II. 罪を覆う蓋、すなわち、なだめの場所が表徴するのは、キリストが神の義なる律法の蓋であり、またキリストが神が恵みの中で彼の贖われた民に語りかける場所でもあるということです。このゆえに、なだめの場所は、神の恵みの御座と等しいのです。この恵みの御座、すなわち、神がわたしたちに恵みを与える場所は、実は牧養するキリストご

自身であり、彼は二つのケルビムの間に座しており、またわたしたちの霊の中に住んでいます——ヘブル 4:16. 詩 80:1. 出 25:22 :

A. 蓋を作るのに用いられた純金は、キリストの純粹で神聖な性質を表徴します。

B. 罪を覆う蓋の寸法は、証しを表徴します—— 17 節。

III. 「また、二つの金のケルビムを作らなければならない。打ち物作りで、罪を覆う蓋の両端に作らなければならない」——出 25:18 :

A. ケルビムは、神の栄光を表徴します (エゼキエル 10:18. ヘブル 9:5)。こういうわけで、罪を覆う蓋の上にあるケルビムは、キリストが神の栄光を表現することを示しています (参照、ヨハネ 1:14)。

B. ケルビムが打ち物作りであったことが示しているのは、キリストが神聖な栄光を表現することが苦難を通してであったということです——参照、ヘブル 2:9-10. ローマ 8:17-18。

IV. 「一つのケルブを一つの端に、一つのケルブをもう一つの端に作り、罪を覆う蓋の一部として、ケルビムをその両端に作らなければならない」——出 25:19 :

A. 二つのケルビムが、罪を覆う蓋の一部であったことが示しているのは、神の栄光が、罪を覆う蓋としてのキリストから輝き出て、またキリストの上に輝いて、証しになるということです——参照、ヨハネ 1:14. II コリント 4:4, 6。

B. ケルビムの形、大きさ、重さが記載されていないことが示しているのは、キリストの輝きの栄光が計り知れず、奥義的であるということです——参照、ヨハネ 3:34。

V. 「ケルビムは翼を上広げて、その翼で罪を覆う蓋を覆い、顔を互いに向かい合わせて、ケルビムの顔が罪を覆う蓋に向かうようにしなければならない」——出 25:20 :

A. ケルビムの翼が、罪を覆う蓋を覆っていたことが示しているのは、神の栄光がキリストの中から表現されて、満ち満ちた証しになるということです——ヘブル 1:3 前半. エペソ 3:21 とフットノート 4。

B. ケルビムの顔は、互いに向かい合っており、また罪を覆う蓋に向かっていました。これが表徴しているのは、神の栄光が、キリストの行なった事を注視し、観察しているということです。

VI. 「罪を覆う蓋を箱の上、その上に載せ、箱の中に、わたしが与える証しの板を入れなければならない」——出 25:21 :

A. ケルビムと罪を覆う蓋が純金を用いて作られたことが表徴しているのは (17-18 節) キリストが神の栄光の輝きであり (ヘブル 1:3 前半)、

その照らしが神聖であるということです。

- B. 金で作られている罪を覆う蓋が、アカシア材の箱の上に置かれたことが表徴しているのは（出 25:10）、キリストの神性ではなく、キリストの人性が、彼が神聖な性質の栄光を表現する基礎であるということです。アカシア材が表徴するのは、キリストの人性が、性格において堅固で、標準において高いということです。

VII. 「わたしはそこであなたと会い、罪を覆う蓋の上から、すなわち証しの箱の上にある二つのケルビムの間から、イスラエルの子たちに対してあなたに命じるすべてのことについて、あなたと語る」——出 25:22.

参照、詩 80:1 :

- A. 神が、罪を覆う蓋の上から、また二つのケルビムの間から、彼の民と会い、彼らに対して語ったことが表徴しているのは、なだめるキリストの中で、また彼の証しとしてのなだめるキリストの中から表現された栄光の中で、神がわたしたちと会い、わたしたちに対して語るということです——参照、Ⅱコリント 3:8-11, 18 :

1. 神がその中でわたしたちと会い、わたしたちに対して語る栄光は、キリストの計り知れない、また説明することのできない輝きです。
 2. ケルビムと連なっているなだめの場所、すなわち、罪を覆う蓋は、まさしくわたしたちの愛する主イエスご自身です。神がわたしたちと会い、わたしたちと語るときはいつでも、この尊いキリストがわたしたちと共にいます。実は、この輝くキリストの中で、神はわたしたちと会い、わたしたちと語るのです。
 3. 重要なのは、なだめが単に行為だけではないのを見ることです。なだめとはまた、場所としてのキリストご自身です。ローマ第 3 章 25 節によれば、神はキリストご自身というこのパーソンを立てて、なだめの場所としました。このパーソンの上で、神はわたしたちと会うことができ、わたしたちも神と会うことができるのです。
 4. 罪を覆う蓋（なだめの蓋）の上に振りかけられたなだめの血は（レビ 16:14-15）、蓋の下にある神の義なる律法の要求を満たし、また蓋の上にある神の聖なる性質と輝く栄光との要求を満たし、このゆえに人の良心に平安を与えます。
- B. こういうわけで、罪を覆う蓋と、罪を覆う日にその上に振りかけられた犠牲の血とが描写しているのは（14-15, 29-30 節）、人性における贖うキリスト（彼の法理的な贖い）と、神性における輝くキリスト（彼の有機的な救い）が、墮落した罪人が、義で、聖で、栄光の神と会うことができ、彼の言葉を聞くことができる場所であるという

ことです。これによって、彼らは恵みとしての神を注入され、彼からビジョン、啓示、指示を受け、彼らの日常生活を支配します（箴 29:18）：

1. 神はキリストの栄光の中でわたしたちに来るとき、彼の義なる律法の要求を見ず、わたしたちの罪を見ません。そうではなく、彼は罪を覆う蓋の上の贖う血を見ます。
 2. キリストの人性は贖うためであり、彼の神性は輝くためです。罪を覆う蓋の上のケルビムは、キリストの神性を伴う輝きを表徴し、罪を覆う蓋の上に振りかけられた血は、贖いのための彼の人性を表徴します。今やわたしたちと神は、贖い輝くキリストの中で共に集まり、共に語ることができます。
 3. 罪を覆う蓋の上で、また神の栄光の輝きのただ中で、わたしたちは神の御声を聞き、彼の心の願いを知ることができます。
 4. さらに、わたしたちが主と時間を費やして、彼の尊い血と輝く栄光を認識すればするほど、ますます彼はご自身をわたしたちの中へと注入します。キリストを生きることは、彼が注入されたことの自然な結果です——参照、Ⅱコリント 3:18. ペリピ 1:19-21 前半。
- C. 至聖所で神の注入を受け、神の注入にしたがって歩くクリスチャンは、最も意義のあるクリスチャンです。主の究極の回復におけるクリスチャンであることが、この時代を終結させ、王国の時代をもたららし、究極的に新エルサレムをもたらします。